

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501657		
法人名	有限会社ふるかね屋		
事業所名	グループホームおたっしや長屋		
所在地	津市野田165		
自己評価作成日	平成23年7月25日	評価結果市町提出日	平成23年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501657&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501657&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 8 月 8 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の個を大切に、基本理念にあるように「たった九人のニーズすべてに答えられなくて何がグループホームか」を職員全員で考え実践している。おたっしや長屋に決まったスケジュールはなく、入居者ひとりひとりが、一日を決定していくことの出来るお手伝いさせてもらっている。全体に下肢筋力の低下がみられ、車椅子になっても月一回の遠出の外出だけは外せない行事である。入居者の楽しそうな笑顔を見て、楽しい気持ちになる職員が多いからだ。おたっしや長屋とは、そういう施設である。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者(代表)の認知症老人介護への深い思いから、「たった九人のニーズ、すべてに応じられなくて、何がグループホームか！お世話してあげているのではない、お世話させていただく仕事なのだ！」を理念として掲げ、管理者、職員のコミュニケーションの下、安全・安心・笑顔の生活を実践している。広い敷地に中庭、畑、ウッドデッキがあり、解放感や生活感のあるホームは利用者也職員も会話が飛び交い、一人ひとりに生き生きとした様子が感じられる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲げ、職員の共通理解としている。	事務所に基本理念を掲げ、運営者及び管理者のリーダーシップのもと、日々の会話やミーティングで職員の融和を図り、日常のケアや運営に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会の奉仕活動や会議などは経営者が参加している。行事には今年も全員参加の予定です。	自治会に加入し、回覧等情報を受け、一斉清掃活動や盆踊りに参加している。また、事業所で行なっている「椅子体操」に地域の老人を招いたり、近隣の人に庭の清掃を手伝ってもらったり、野菜をもらったり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501657&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501657&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>	「おたっしゃ通信」の回覧や、いす体操に参加してもらおう等、地域に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長の変更もあり、今期から2ヶ月に1度の開催が出来るようになった。	市介護保険課職員、2地区の自治会長、民生委員の外部メンバーに運営者と管理者が参加して隔月開催を計画実施し、現況報告や課題について協議している。	2か月ごとの継続開催からも議題に応じて臨時メンバー(家族代表、協力医、学校、駐在所、消防署等)を検討され、地域社会に密着した幅広い方々との意見交換の場となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いろいろとお世話になっている。	運営者や管理者は市介護保険課と各種申請更新手続き時等に情報交換や相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をはじめ、一切の身体拘束は行っていない。	職員は身体拘束の弊害をよく理解しており、玄関等出入り口の施錠を含め、身体的な拘束をしないケアを実践している。	拘束のないケアを当然と受け止め支援しているが、職員の入れ替わりもあり、マニュアル勉強会等で毎年振り返る機会を設けることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを回覧し、また会議の度に拘束、虐待について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設者は何度も講習や研修で学んできたが、まだ伝達講習には至っていない。また、現時点では必要な状況ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書により十分説明をし、理解納得した上で入所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望には応えられていると思う。	重要事項説明書に事業所及び外部相談機関を明記しているほか、玄関に目安箱を設置している。また、管理者、職員は、日々の話し掛けや家族面会時に話しやすいよう気配りしている。受けた意見、要望等は検討し運営者に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員で作り上げるホームとなるよう、意見提案は随時受け入れている。	管理者はミーティングで話し合う機会を設けているほか、運営者が常駐し、職員が日々フランクに言える、また、聞く環境を作り出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きに応えるよう精一杯の経営努力をしているつもりであるが、いかんせん金銭的なことは現状の介護保険報酬では100%満足してもらっているとは考えづらい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は希望者を募り、積極的に参加してもらっている。伝達講習は全員が顔をそろえることが不可能なので、レポート提出→回覧、という方法で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じような考えを持つ他施設の代表者、管理者、職員とは交流、意見交換など取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何をもちて本人の意思表示とするかは疑問であるが、困っていること、不安に思っていることなどを察知できるよう「気づき」を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に聞き取れることが全てとは思わず、来所時にいろいろ聞き出すよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	駆け込み寺的な要素もあり、とにかく入所させて欲しい、というご家族ばかりである。体験入所をお願いして、見極めをすることが多い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護、という視点は忘れないよう職員に徹底し、また実行してくれていると思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問回数も多く、職員との関係も良好と感じている。要望等もいただけ、それに応えていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんへの面会も多く、買物などお出かけのときは利用者さんが以前に利用していたスーパーなどにも足を伸ばすようにしている。	職員は一人ひとりに寄り添い、想い出話や思いを聴くことに努めている。希望があれば馴染みのスーパーや美容室や医院等に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい人、気が合わない人などは把握している。誰かが誰かの世話をする姿がよく見られるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方、ご主人をなくされた方など、実際にはかかわりが無くなってもご家族が電話や、訪問をしてくださり、また、職員もそれに応えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を発することが出来る利用者さんは僅かであるが、発せ無い方の思いなども察するよう努めている。	職員は一人ひとりに話し掛けて対応すると共に、困難な場合は入浴時、就寝時、起床時等タイミングを大切に、一言一句、表情、しぐさからも思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦から一歩踏み込んだ発症までの「生活の様子、人となり」を知り得る様ご家族に協力をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化にも意識を傾注している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はご家族に提示、確認していただき、更なる要望や、意見を聞きだすよう努めている。そこで気付いたことを介護計画の見直し等に反映させている。	毎月計画作成担当者は利用者ごとの「生活記録」や職員から聞き取りした一人ひとりの状態や課題をもとに、更に家族の要望、医師の意見等を踏まえて、計画書の追加修正等見直しを行ない、ケア会議や「職員連絡帳」で周知徹底している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は詳細に記録し、会話内容に重点をおき本人の希望や要望を推察し、職員間で情報を共有、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援、サービスの多機能化には出来るだけの努力はしているが、金銭のかかることは現状の介護保険報酬では難しい事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源はうまく利用させていただいている。安全面にも充分配慮しているつもりだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的にご家族の方をお願いしているが、殆どのご家族は不可能な環境にある。日常生活の説明などは、職員でないと出来ない。連携医は随時往診も含め、よくしてくださっている。	事業所の協力医(毎月往診あり)の他、利用前からのかかりつけ専門医の診療も受けられるよう家族と協力し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤専従の看護師を配置し、日々健康の管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約書では入院15日を以て退所、としているが、今まで退所していただいた利用者さんはいない。治療計画が出た時点でご家族と相談させていただくことになっている。「できるだけ早期」に退院できるよう帰所環境は整え、何度も見舞いに行き病院と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当初グループホームに求められていた趣旨とは違って来た。医療連携加算もいただいているので、指針を立て、ご家族に説明、また延命治療の要不要についてもアンケートを提出していただいている。	看取り指針があり、契約時から本人・家族と終末期のあり方、重度化した場合の要望(アンケートも利用)や事業所でできること、できないこと対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議が開催出来ているので、近隣との協力についてはこれからつめていくところです。今年も秋に避難訓練を予定している。	昨秋、火災を想定した屋外への避難誘導訓練を利用者と共に実施した。今年も9月に予定している。	避難誘導方法は訓練を繰り返し実施することにより身に付くので、夜間災害を想定した訓練や研修を含め、頻度を上げた自主訓練の実施、更には地域住民との協力体制についても検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念にのっとり人格を尊重し、プライバシーの保護にも充分注意している。	管理者及び職員は日々の会話や態度、トイレ、入浴介助等での言葉かけ、気配りなどについて話し合い互いに啓発し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に考えたり、待ちの姿勢で希望が言葉となるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側に決まりはない。利用者さん本意のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服などを把握し、気持ちよく生活していただけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きや下膳などは一緒にできる方もみえるが、調理はなかなか乗り気にならない。コロッケ、餃子等の形成までなら楽しく出来る。	食堂はオープンキッチンで、音・動き・匂いが漂い、配膳前、全員が楽しそうに嚙下体操を楽しんでいる。食事は自前の食器で、互いに労わり合う様子が見られる。また職員も食卓を囲み会話のある和やかな雰囲気が覗える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取能力に合わせておかゆ、刻み食など対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔内の特徴を把握しケアしている。必要のある方は歯科往診にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を訴えられない方などは定時誘導し、尿意の訴えや顔色、その他利用者さんそれぞれの特徴を掴み、自立に近づけるよう努力している。	日々の排泄記録と本人の訴えや表情から理解に努め、一人ひとりのパターンに合わせた誘導によりトイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防策は取っているが効果がなかなかでない。便秘薬の服用で出なければ摘便してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員側に決まりはない。利用者さん本意のペースを大切にしている。	毎日午後入浴できる態勢にあり、意向を聞いた順番を調整したりして一日おきの入浴を支援している。入浴介助はマン・ツー・マンでこころが和み職員も楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の様子を見て判断し、促し、入眠していただいている。なるべく利用者さんのペースに合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かなりのレベルで理解しているつもりだ。医師に対しても症状の変化などをこまめに伝え、対応を考えていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	保育園みたいにならぬよう尊厳を重視し歌やゲーム、体操などを選んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	下肢筋力の低下により散歩が難しくなっている方が多いが、車椅子でも畑に出たり草抜きしたりと職員と一緒に外に出る方もみえる。月一回は、遠出の外出をしている。	日頃は構内で広いウッドデッキでの外気浴やプランターの手入れ、裏庭での畑いじりをしている。偶には地区の公園まで散歩したり、盆踊り大会に出向いたりしている。また、月に一度は家族にも声掛けしてマイクロバスで弁当持参の行楽に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	でしゃばらない程度に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は発信のお手伝いをさせていただいている。手紙の発信も一部の方のお手伝いをさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計段階から”家庭の延長”をコンセプトに展開してきた。不快や混乱があるとは思えない。	玄関には金魚の水槽、浜木綿の活花、虫籠が置かれ家庭的である。屋内は中庭を囲む廊下に面して食堂、和室、サンルームのあるロビー、9室の居室等が配置され、全体に窓が広く日当たりもよく明るい造りである。また皆が集う食堂のガラス戸は利用者の行楽時の写真等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は独りになる場所ではない。また気の合った利用者さんが居間に移ってDVD鑑賞やカラオケを楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、親戚の写真を貼った部屋など、本人が居心地がよいであろう工夫をご家族と共に考えている。	トイレ、洗面所は備え付けられている。箆笥、ベッド、テレビ、棚、置物、日用品等配置よく置かれ、また壁は家族写真等で飾られて居心地良さを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には充分留意している。できること、も把握し廊下に矢印を貼ったり、トイレのマークを貼ったりして工夫している。		